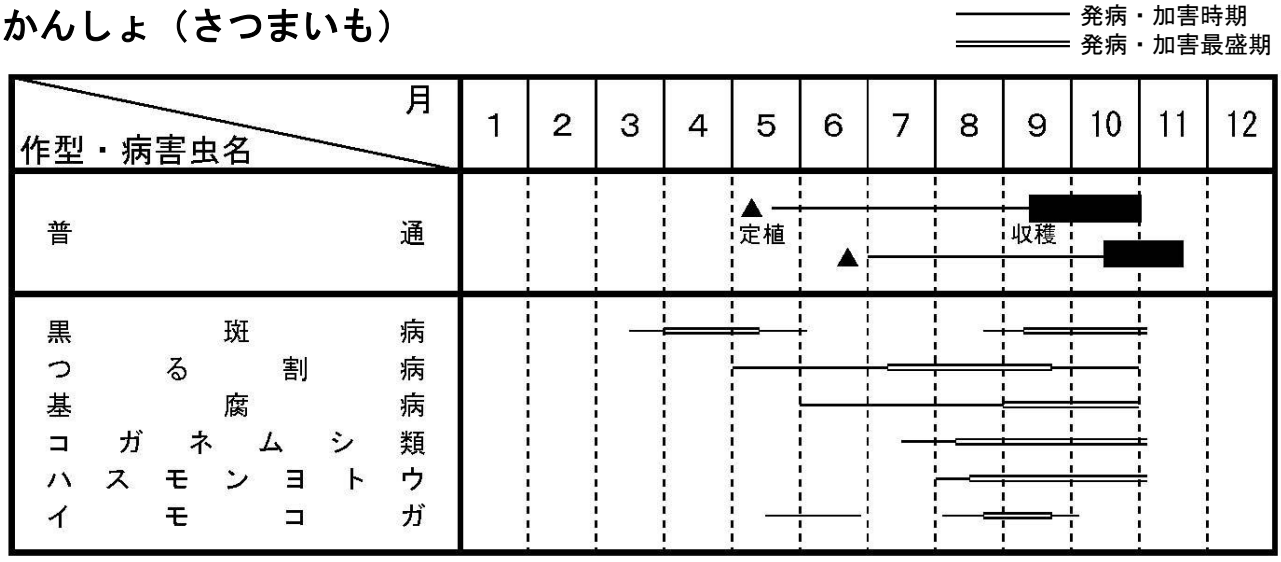
VIII　いも類の病害虫防除

かんしょ（さつまいも）



黒斑病

留意事項

1 糸状菌（かび）の一種によって引き起こされる土壌病害であり、苗床、本ぽ、貯蔵中にも発病する。
2 本ぽの土壌害虫（コオロギ類、コガネムシ類など）の食痕からの発病が多い。
3 消毒後は、なるべく早く伏せ込まないと、軟腐病にかかりやすくなる。
4 ベンレート水和剤、ベンレートＴ水和剤20は同一成分ベノミルを含み、総使用回数は4回以内（但し、植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内）。

防除方法

1 連作を避け、輪作する。
2 種いもは、無病地産のものを用いる。
3 無病苗を用いる。
4 発病苗床の土は、翌年には使用しない。
5 種いもは丁寧に扱い、傷を付けないようにする。
6 土壌害虫（コガネムシ類など）の防除に努める。
7 種いもは47～48℃の温湯に40分間浸漬後、低温にあてないように伏せ込む。
8 下記のいずれかの薬剤で、種いもや、さし苗基部を処理する。

・トップジンM水和剤 [1]
【200～500倍　20～30分間　種いもまたは苗茎部浸漬　植付前／1回】

・ベンレート水和剤 [1]
【種いも重量の0.4%粉衣　植付前／1回】または
【500～1,000倍　20～30分間苗基部浸漬　植付前／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ベンレートT水和剤20 M３ 1
【20倍　1分間さし苗基部浸漬　植付前／1回】　または
【200倍　30分間さし苗基部浸漬　植付前／1回】

つる割病

防除方法

1 種いもは無病地のものを用いる。
2 抵抗性品種(高系14号など)を用いる。
3 苗床、本ぽを土壌消毒する。(ＸⅢ 土壌消毒　参照)
4 植付け前または、さし苗時に下記の薬剤を施用する。

・ベンレート水和剤 1
【500～1,000倍　20～30分間苗基部浸漬　植付前／1回】　または
【500～1,000倍　株元かん注　挿苗時／1回】
・トリフミン水和剤 3【500倍　17時間苗基部浸漬　植付前／1回】

基腐病

留意事項

1 令和４年９月、府内で発生が確認された。今後、発生が広がる可能性があるので、注意が必要である。
2 罹病すると葉が赤変、黄変し生育不良となる。茎は地際部が暗褐色から黒色になる。秋頃から一気に枯れ上がったように見える場合が多い。
3 塊根は、なり首側から褐色～暗褐色に腐敗することが多い。
4 感染した種いもと苗で、ほ場内に侵入する。罹病残さで越冬し、翌年の一次伝染源となる。
5 ベンレート水和剤、ベンレートＴ水和剤20は同一成分ベノミルを含み、総使用回数は4回以内（但し、植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内)。

防除方法

1 出自の明らかな無病苗を使用する。
2 ほ場の排水対策を十分に行う。
3 植付前に下記薬剤を散布後土壌混和し土壌消毒する。

・バスアミド微粒剤 劇　・ガスタード微粒剤 劇 一【30kg／10a　植付21日前／1回】
・フロンサイド粉剤 ２９【40kg／10a　植付前／1回】
・フロンサイドSC ２９【500ml／10a 200L希釈　植付前／1回】

4 苗床で発病を確認した場合は、土壌ごと抜き取り、適切に処分する。
5 植付前に苗消毒を徹底する（消毒済の苗は、使用農薬を確認する)。

・ベンレート水和剤 1【500～1,000倍　30分間苗浸漬　植付前／1回】
・ベンレートＴ水和剤20 M３ 1【200倍　30分間苗浸漬　植付前／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

6 発生ほ場で使用した農機具や資材は洗浄や消毒を十分に行う。
7 被害株は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。また、周辺株への感染予防のため下記の薬剤を散布する。
・Zボルドー Ｍ１【500倍　ー／ー】
・ジーファイン水和剤 ＮＣ Ｍ１【1,000倍　前日／ー】
・アミスター20フロアブル １１【2,000倍　14日／3回】
・トリフミン水和剤 3【2,000～3,000倍　前日／2回】
8 栽培終了後、ほ場に残った残さはほ場から持ち出し、適切に処分する。
9 発生が激しいほ場では、2年以上かんしょの栽培を中止する。

コガネムシ類

留意事項

1 ドウガネブイブイ、アオドウガネ、ヒメコガネ、アカビロウドコガネ等コガネムシ類の幼虫が塊根の表面を食害する。
2 成虫はかんしょの葉をあまり食害しないので土中の幼虫の防除が中心となる。

防除方法

1 土中の幼虫を防除するため、下記の薬剤を植付前に施用する。
・アクタラ粒剤5 ４Ａ
【コガネムシ類幼虫　6～9kg／10a　全面土壌混和または作条混和　植付前／1回】
・フォース粒剤 劇 ３Ａ
【コガネムシ類幼虫　9kg／10a　全面土壌混和または作条土壌混和　植付前／1回】
2 上記の薬剤を施用しなかった場合は、7月中旬～8月中旬に下記の薬剤を施用する。
・ダイアジノン粒剤5 １Ｂ
【コガネムシ類幼虫　4～6kg／10a　作付前：全面土壌混和
または作条土壌混和、作物生育中：作条処理して軽く覆土　30日／3回】
・ダントツ粒剤 ４Ａ
【6～9kg／10a　全面処理土壌混和または作条処理土壌混和　植付前／1回】

ハスモンヨトウ

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アクセルフロアブル ２２Ｂ【1,000～2,000倍　前日／3回】
・トレボン乳剤 ３Ａ【1,000倍　7日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・コテツフロアブル 劇 １３【2,000倍　前日／2回】
・アファーム乳剤 ６【1,000～2,000倍　7日／3回】
・フェニックス顆粒水和剤 ２８【2,000～6,000倍　前日／2回】

イモコガ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アディオン乳剤 ３Ａ【3,000倍　7日／5回】
・スミチオン乳剤 １Ｂ【1,000倍　7日／5回】

ネコブセンチュウ

留意事項

1 ネマトリンエース粒剤は、成分にホスチアゼートを含み、総使用回数は2回以内（但し、苗床は1回以内、本ぽは1回以内）。

防除方法

1 連作を避ける。
2 植付前に下記の薬剤を施用する。

・ネマトリンエース粒剤 １Ｂ
【10～30kg／10a　全面土壌混和　植付前／1回】　または
【15～20kg／10a　作条土壌混和　植付前／1回】
・ネマキック粒剤 １Ｂ【15～50kg／10a　全面土壌混和　植付前／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。